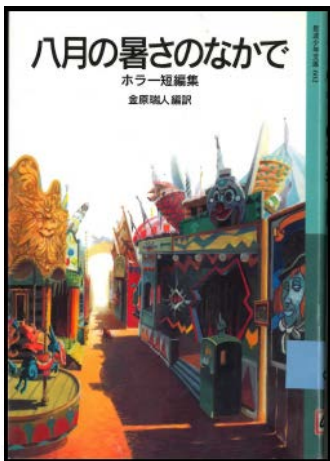


# よんでネット\*

2022

夏号

発行□茅ヶ崎市立図書館／協力□茅ヶ崎図書館子どもの本の会



岩波少年文庫  
{9081}

## 『八月の暑さのなかで』ホラー短編集 金原 瑞人 編訳

暑い夏、気持ちの温度を下げてくれるホラー短編集  
はいかがでしょう？ あなたの夢の中で<sup>し げい せん こく</sup>死刑宣告を  
された犯罪者とそっくりな人物が、あなたの目の前で  
あなたの名前の墓石を作っている。殺されるのは  
つまり...？ ホラー小説の名手といわれた作家たちの  
13編はただ怖いだけでなく、どれも驚きと同時に  
不思議な感覚が味わえます。

※ ホラー短編集として、シリーズが他に3冊あります。

## 『ダーウィンと出会った夏』 『ダーウィンと旅して』

ジャクリーン・ケリー作 斎藤 倫子 訳

1899年 テキサスの田舎町で暮らす  
11歳のキャルパーニアは、7人兄弟の中で  
ただ一人の女の子。だが誰よりも  
行動的で、裁縫<sup>さいほう</sup>や料理を習うより、  
気楽し屋の祖父と進化論の話をしたり、  
生き物の観察や研究をする方が  
はるかに好きだった。女性が自由な  
生き方を選べなかった時代、キャルパーニアは  
次第に自分の望みに気がついていく。



ほるぷ出版 {933ケ}



# 『ぼくがゆびをばちんとならして、きみがおとなになるまえの詩集』

斉藤 倫著  
高野 文子画

このやたらなが〜い題名の本は、詩集。で、小説です。小学生の“きみ”が、大人の“ぼく”の家にやってきて、いろんな話をして、その度に“ぼく”が“きみ”はこんな気持ちかな？という詩を手渡します。大人になるといろんなことを忘れてしまう。。。その前に手に取ってほしい詩集です。

福音館書店  
(911サ)

# 『リズムがみえる』

ミシェル・ウッド 絵  
トヨミ・アイガス文 金原端人訳  
ヒーター・バラカン監修



500年前、アフリカでは太鼓のリズムで伝説や信仰を伝えていた。ところが、奴隷としてアメリカに渡った子孫は、太鼓を禁止され、代わりに、手拍子と足踏みでリズムを刻むようになる。奴隷の歌からラップ、セップ、ホップにいたるまで、母なるアフリカに育てられたリズムは今も彼らの中に生き続ける。

サイザンブックス社  
(764ウ)



汐文社 (913ナ)

# 『ワタシゴト 14歳のひろしま』

## 『あなたがいたところ』

ワタシゴト 14歳のひろしま・2』

中澤 晶子作 ささめやゆき絵

修学旅行で、広島にある原爆資料館を訪れた中学3年生の5人。弁当箱、クツ、...。遺された資料は語りかけ、原爆の被害者が確かな存在として感じられる。

ワタシゴトとは 渡し事 = 記憶を手渡すこと。

ワタシゴトとは 私事 = 他人のことでない、私のこと。

それぞれに悩みを抱え、戦争とは遠い世界で暮らしていた5人の「ワタシゴト」とは？